

学校部活動の地域連携および地域クラブ活動への地域展開に向けた方針 概要版

～中学生のスポーツ・文化芸術活動の充実に向けて～

多賀町教育委員会

◎ 策定の趣旨

地域の子どもたちを、学校を含めた地域で育てるという意識の下で、生徒の望ましい成長が保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すこととする。

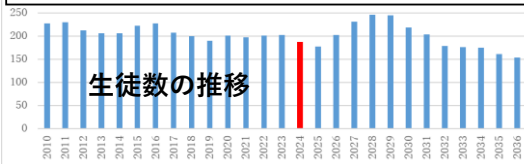
☆ 学校部活動の意義

学校部活動は、生徒のスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、多様な学びの場として生徒の資質・能力の育成に資するものである。

◎ 本町における部活動等の状況

ア 生徒数の推移の傾向

多賀の生徒数は、近年の傾向を見ると全校生徒が200名前後で推移してきた。今後の数年間は一時的な増加傾向を示している。しかし、それ以降は減少傾向にある。



イ 生徒ニーズの多様化

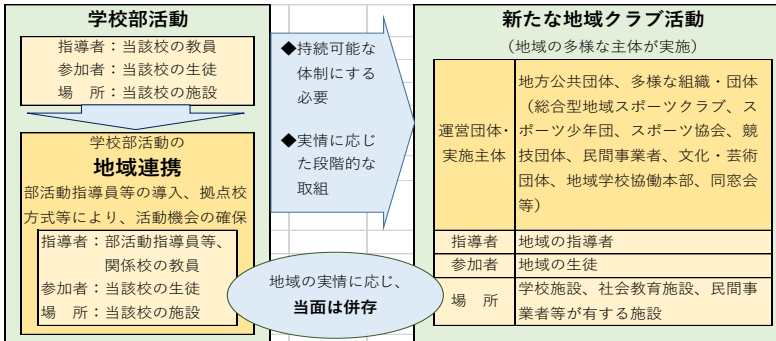
滋賀県中体連加盟校数を見ると、合同チームでの大会参加を認めるなどの救済措置が取られているにもかかわらず、平成29年から大きく減少する傾向を示している。

アンケート調査によると、学校部活動にはない活動に参加している生徒が一定割合いて、ニーズが多様化してきた。

ウ 教員の業務負担の過多

本町のアンケート調査によると、多くの教員が部活動の指導にやりがいを感じている一方で、負担に感じている。また、地域移行についても、専門的な指導や活動の選択肢が増加など、肯定的に捉えている。

地域連携と新たな地域クラブ活動



A 学校部活動（従来型） 従来どおりの生徒、教員による部活動

学校部活動は、学習指導要領に「学校教育の一環として教育課程との関連が図られることが留意されること」とされ、教員が担い、その成果を上げてきた歴史がある。しかしながら、いくつかの手立てを講じてきたが、従来型は限界を超えつつある。

部活動が教員の献身的な勤務の下で成り立っており、学校の働き方改革を踏まえながら、従来型の学校部活動に含まれる問題等に対して、可能な限り配慮した継続が望まれ

B 学校部活動を支援

地域の教育力や指導力を学校部活動に導入して、教育的な意義の実現を図る。

想定される連携・展開のパターン

① 外部連携・支援型

学校部活動へ地域人材を部活動指導員や外部指導者として活用することを推進する。

生徒の活動環境の充実の観点からも、地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者の活用等、保護者の理解と協力を得て、学校と地域が協働・融合した形で地域におけるスポーツ・文化芸術団体等の有する人材を活用などの環境整備を進める。

滋賀コーチバンクシステム等を活用して、地域指導者の発掘・募集ができる。

② 拠点校・拠点施設型

近隣市町とともに、合理的で効率的な部活動の推進を目指して「拠点校方式」等による合同部活動を推進する事業を実情に応じた形態を検討していく。

犬上郡の3町は、ほぼ同規模の自治体であり、同じような課題を抱えていることから、できるところから連携して活動する機会を増やしていく。その際、施設の利用においても、中学生の活動を支援するような支援のあり方を検討する。

◎ 基本的な考え方

- ① 学校部活動の地域連携を進めながら持続可能な活動体制づくりを行うとともに、休日の学校部活動から段階的に新たな地域クラブ活動への地域展開を進めていく。
- ② 地域展開の基本的な考え方や具体的な進め方等について協議を継続するとともに、関係者の共通理解の下、実情

○ 目指す姿（実現に向けて求められる要素）

① [体制づくり]

子どもたちが、少子化の中でも、スポーツ・文化芸術活動に親しむことのできるよう学校と地域が連携した持続可能な体制の整備

② [人づくり]

子どもたちの自主的・自発的な活動を支える指導体制の構築

③ [環境づくり]

子どもたちが、適切な休養日や活動時間の中で、学校内外の活動、および食事・休養・睡眠等時間のバランスの取れた生活を送ることができる環境づくり

C 地域クラブ活動による活動

地域指導者と学校との連携を図りながら、地域の実情やニーズを踏まえて、生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保や、心身の健全な育成等につながる活動を保障する。

① 新たに地域クラブ活動の発足

地域のスポーツ・文化芸術団体等が、学校等の関係者の理解と協力の下、生徒の活動の場を提供する。

② 平日の学校部活動との連携

まずは、休日のスポーツ・文化芸術活動を地域のスポーツ・文化芸術団体が担う。可能なところから、平日も実施する。